府営住宅ニュース

ふれあいリビング

世代間を超えた交流が実現。地域の心の拠点「ふれあいリビング」を訪ねてみました。

ますます高齢化が進み、環境の変化は足音を立てながら近づいています。高齢者が孤立することなく、あそこに行けば、誰とでも話ができ、心のふれあいができる・・・・。こんな願いを込めて生まれたのが「ふれあいリビング」です。モデル的に3住宅（下新庄鉄筋住宅、高槻五領住宅、金岡東第4住宅）で設置され、今もボランティアによる自主運営で活発に活動されている中、今回新たに既存集会所の一部をふれあいリビングとして開放された3住宅を紹介します。

せっかくやるならと、エプロンもみんなでそろえたとか。

●寝屋川三井住宅 ふれあいリビング「三井が丘はちかづき」

みんなの願いが実現。助け合いの心でさらなる地域の交流をめざして。

リビングの中はいつも明るくにぎやか。

ひざしを浴びたふれあいリビングはあたたかい雰囲気に満ちています。リビングは約40名のボランティアが熱心に運営し、午前中は常に人でいっぱい。坂地澄子さんは「家に一人でいると言葉を忘れてしまいそう。ここに来れば誰かと話せる安心感があるのでしょう」と地域の交流を素直に喜んでいます。この影響は高齢者の間だけでなく、若い主婦にも伝達。「雨の日の買い物は大変。なにか手助けできたらと、ここで一時子供を預かってあげることも。お母さんから助かったと言われます」。ボランティアが支えるふれあいが世代を越えて盛んになっています。

運営委員長の坂地澄子さん。

「三井が丘はちかづき」は月・水・金と第2・4の日曜日

●交野梅が枝住宅 ふれあいリビング「梅の郷」

西村さんを中心に汗を流す「梅の郷」のボランティアのみなさん。開催日は火・金・日の3日間

「どないしてたん？」「元気やった？」・・・暮らしの心配事まで相談できる駆け込み寺になりたい。

「困ったときの駆け込み寺になれば」と話すのは古川義雄さん。初めはどうなるかと心配されていたそうですが、今では団地外の人も巻き込んだ交流がなされているほど。気軽に利用できるように通りに面したテラスにもテーブルをおいて、開放的な雰囲気作りをされています。「沢山来てくれて、時には待ってもらうほど」と、うれしい悲鳴も。「梅の郷」が完成してからは一人暮らしの高齢者への心配が徐々に緩和されつつあるそうです。ボランティア協力券を作るなど、楽しく活動できるように工夫されています。

運営委員長の古川義雄さん。

●東大阪・玉串住宅 ふれあいリビング「らん」

カウンターの利点を生かし、スタッフとの会話も楽しめるように。心の交流が完成した。

団地内外の人々とボランティアの間にも話に花が咲く。開催日は月・金と第1日曜日の午前中。

見廻りや声かけ運動を行っていた人を中心にボランティアで運営委員会を結成。開催日にはいつも一日で40名程度が訪れ、とてもにぎわっています。横田すみ子さんは「グチを聞いてもらえるからと、一人暮らしのおじいさんも来てくれる」と、目的の達成を喜んでいます。昼からは若い人も来て、地域の社交場に。「当初、人が集まるか心配だったけれど、今では多くの人の憩いの場になっています」。最近では隣の老人ホームでも同じような場ができたとか。地域に活動が広がっていくのを実感されています。

右はボランティアの中心・横田すみ子さん
下はカウンター越しにみんなで記念撮影。

注）この記事は、2005年夏号のふれあいだよりに掲載されたものです。内容は、すべて掲載当時のものです。